

令和5年度職員自己評価

昨年度後半から「不適切な保育」への社会の目が厳しくなり、何が不適切で、何が不適切でない保育なのかわからなくなってきた…と、保育者自身がなんとなく落ち着かなくなってきた。そこで、今年度は特に「不適切な保育について考える」園内研修し、自分自身の保育を振り返った。

研修を行う前に各自、自分や同僚の保育を振り返り、これって不適切…?!と思うことをリストアップした。それを、言葉・食事・排泄・午睡（睡眠）・行動・その他、にまとめ、それを参考に、再度自分自身の保育の振り返りをした。その後、厨房職員・事務員・ひろば担当者も含めた全職員で園内研修を行った。

園内研修では、項目ごとに検討事項をあげ、4~5人のグループに分かれ意見を出し合った。また、どんな時に不適切な対応をしてしまうのか、そうならないためにはどうしたらよいかなどについても討論した。

研修後は、それぞれが研修で学んだこと、気付かされたことを踏まえて保育に取り組むことができた。が、本当に大丈夫？と、2か月後もう一度自分や同僚の保育を振り返った。

分析

研修前の不適切保育と思われることのリストアップ→それをまとめたものを使ったチェックリスト→研修→保育→研修後のリストアップ、と今回の研修を通して大いに保育の振り返りができた。研修前にリストアップされた内容は、ほとんどがとられ方によっては不適切と言われるもの。自分はそんなつもりはない、やってない、とっていて他の人から見たら不適切な対応と思われることがあるということ職員全員が自覚していなければいけないと痛感した。だからこそ「自分の行動に対してきちんと説明できる保育！」を、肝に銘じ取り組んでいかなければならない。「どんな時に不適切な保育をしてしまうのか」については、チームワーク不足などがあげられた。それに対しては、職員同士お互いの保育について振り返り意見交換をすることが大切。そして、誰からの助言でも素直に聞き入れることも忘れてはならないなどの意見があがった。また、ベテラン職員の意識改革の大切さもあがった。事前に各自不適切な保育にならないように努力していることをあげてもらった。それも参考にしていきたい。

今回のような大人数での研修は初めてで、「普段ゆっくり話せない人と話せてよかった」「いろいろな意見を生の声で聴くことが出来よかった」など、職員には好評であった。

評価

今回の研修は、結論を出すというよりも、今の和合こども園の保育について様々な意見に触れ、職員一人ひとりが自分の保育を振り返り今後どうしていったらよいかを考えること

を目指した。研修後は職員一人ひとりが不適切にならないようにと意識して保育していると感じられる。

不適切保育が起りやすい大きな要因は、保育者自身に気持ちに余裕がないことである。保育についてはお互いに気軽に語り合える雰囲気が必要である。今回のような園内研修や今年度から取り入れている数人で座談会をする場などを来年度以降も設け、よい雰囲気作りに努めていきたい。職員のメンタルケアとして今年度から園長と職員全員との個人面談を始めた。その効果を検証し今後につなげていきたい。また、来年度はより ICT 化を進め現場の業務負担の軽減化に努めたい。

本来なら、不適切な保育を起ささないために、「子どもの人権」について再確認をする必要があった。来年度は、今年度できなかったセルフチェックリストを使用して、子どもの人権について再確認したい。

不適切保育という言葉に、ネガティブな気持ちになってしまいモチベーションが下がってしまいそうになることも多々あったが、今後は園児・保護者・同僚そして自分に優しい園を目指し取り組んでいきたい。